

令和6年能登半島地震被災者支援

支援活動は動き出し、次のステージへ



ひかり新聞

共生共助の社会をめざす

2024.6.30
No.50

一般社団法人
ひかりプロジェクト

能登半島地震への被災者支援の取り組みは、金光教首都圏災害ボランティア支援機構との共同プロジェクトとして、現地での活動が4月22日から始まりました。

拠点開設に当たっては、地元の富士教会のお世話になり、また現地で使う車や、拠点で使用する什器備品類など、多くの方々の協力もあって揃えることができました。

また、支援募金にご協力いただいた方々にも、厚くお礼申し上げます。

これまでの活動は、主に七尾市災害ボランティアセンター、内灘町災害ボランティアセンターでの災害廃棄物搬出・運搬などが中心になっています。

5月中旬からは、車持ち込みボランティアとして、ボランティアの方々の送迎ドライバーも兼ねながら活動しています。また、地元の皆様のお世話になって、輪島市門前地区での炊き出しもさせていただきました。

6月末までの活動参加者は延べ84名、活動日は43日です。老若男女を問わず、全国から参加したボランティアの方々とグループを作り、一日汗を流すのですが、休憩時間等にごこへ来た思いや、福島や宮城、熊本から来た方から、これまで多くの人に助けてもらったお返しにという話を聞くと、人間が持つて生まれた温かい心に胸が熱くなります。

6月中旬から、倒壊した住宅の公費解体がようやく始まりました。そして、避難所での生活から仮設住宅への引越しも始まっています。

6月27日現在の石川県の資料によりますと、9つの市町145カ所で6,642戸の建設型応急住宅が着工され、すでに完成したのが4,943戸(約75%)です。

新聞テレビ等でも報道されていますが、能登半島は平坦な広い土地が確保しづらく、小規模な仮設住宅が多く目につきます。また、輪島市のマリントウンの周辺には多くの仮設住宅が建設されていますが、海のすぐそばで津波の想定浸水域に入ります。仮設住宅を一日でも早く提供したいという中ででの苦渋の判断だったと思います。

災害廃棄物の撤去がいっ頃終わるのか、地域によって異なり、はっきりしません。今後私たちの活動も、徐々に仮設団地での寄り添い支援に移っていくと思います。

そのための調査を七尾市や内灘町、さらには炊き出しを行った輪島市門前地区などに候補地を絞って、この6月から始めました。これまでの経験から集会所がないとなかなかイベントは開けません。石川県の応急仮設住宅整備方針では、20戸以上50戸未満の団地には40㎡程度の談話室を1か所、50戸以上の団地には90㎡程度の集会所を1か所設置することを基本にしています。しかし、残念ながら七尾市内では談話室や集会所が併設されたところは、今現在ありません。

それぞれの地区の社会福祉協議会を通して、どういった活動が求められるのか、これまで気仙沼や熊本での経験を活かしてやるのか、新たな取り組みを行うか検討していきます。

ひかりプロジェクト会員の方々やご賛同くださる方々には、活動するためのインフラ(拠点や移動用の車等)も整っていますので、ぜひ活動に参加していただきたいと思います。そして「こんな活動をしてはどうか」というご提案もお待ちしています。

(藤原 久久)

活動参加者の声

5月25日(土)、輪島市門前町の諸岡公民館にて、「炊き出しボランティア」をスタッフ11名で行いました。

メニューは「すき焼き風丼」。

前日から、食材の準備をしていたおかげで、11時半頃には無事完成しました。

12時には行列ができて、門前中学校で40食、諸岡公民館では180食、皆さんに召し上がっていただきました。



炊き出しのスタッフ



1斗5升を炊飯



4つの大鍋で煮る

大量の肉を4等分



出来上がり



温泉卵をのせて配る

★佐々木 睦美さん (愛知県名古屋市長) **息の長い支援を**

220食の「すき焼き風丼」を作るのも、配るのも、大変なことだと心配していましたが、なんとか配布開始時刻より早く作り終えることができ、避難所の方や近隣の方が順序よく並んでくださり、混乱もなくスムーズにお渡しすることができました。

被災された方も、公民館のスタッフの方にも喜んでいただき、逆に私たちが元気を頂きました。

先日、ネットで、「諸岡公民館に避難していた人たちが全賃仮設住宅に入居することができ、避難所が閉所された」というニュースを見ました。

これからは、力仕事の難しい私たちは、仮設住宅での支援ボランティアなど、息の長い支援活動を続けていきたいいなあと思っています。

★星野 河織利さん (東京都品川区) **ボランティア活動における今後の課題**

震災から約半年が経ったとはいえ、町には倒壊したままの建物が至る所にあり、撤去の順番を待っていました。

今回は20食分の野菜たっぷり「すき焼き風丼」を提供しました。

地元住民の方を始め、他ボランティア団体の方達にも召し上がっていただき、食べ終わると「おいしかったよ！ありがとー」とおっしゃいます。その言葉を聞くだけで、こちらも元気が湧いてきます。

帰宅後、翌日、職場で輪島の現状やボランティア活動のことを話すと、同僚や上司達が「私もボランティアに参加



星野さんは、手を真っ黒にしてゴボウのさがきを作りました



卵としば漬けをつけていいですか？ お水はいかがですか！



ボランティアハウスにて反省会と慰労会

したいけど、どうやったら参加できるの？」「協力したいけど、家を空けられない」「募金はしたよ」等々の声があり「人のために何かしたい」という思いは誰にでもあるのだと感じました。

その思いをどう拾い上げ、今後に繋げていくのか、それが大きな課題だと、今回のボランティア活動に参加して強く思いました。

★横瀬 佳子さん (山梨県甲府市)
首都圏災害ボランティア支援機構事務局

ボランティアハウス
立ち上げのお手伝い

能登半島地震の支援につきまして、支援機構は、ひかりプロジェクト(HPA)との共同プロジェクトとして活動していくことになりました。よろしくお願ひします。

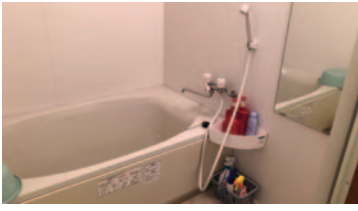
ボランティアを受け入れるために、4月15日(月)から、富山県射水市にアパートの一室を借りました。

私は4月17日(水)〜26日(金)の10日間、ボランティア活動をされる方が、気持ちよく使っていただけるように、「こんなボランティアハウス」一立ち上げのお手伝いに行きました。

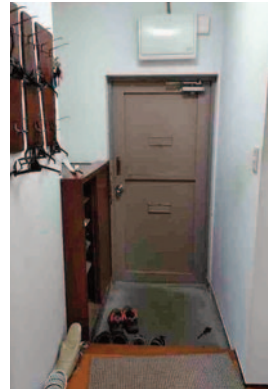
19日からは、HPAの藤原真久さん、大田陽子さん、佐々木睦美さんと一緒に、必要な物を買ひ揃えたり、部屋の掃除をしました。



キッチン周り



お風呂



玄関



資材・備品棚

20日は、地元・高岡市在住の本阿彌毅さんも加わり、石川県七尾市内や和倉温泉の被災状況の確認に連れて行っていただきました。そして、夕方4時半にHPAの車両に家電や資材・備品を満載して、菱田正樹さんと大江靖さんが到着。みんなで搬入すると、ようやく住まいらしくなりました。

私は、初めての地での事前情報収集を行い、「手書きの近隣マップ」を制作して、ハウス内に掲示しました。また、ボランティアハウスの「ルール」や、「家電使用の諸注意」なども書いて貼りました。

毎日、メンバーは替わり、昼はそれぞれ活動を行い、夕食は一緒に地元の美味しいお魚を食べ、銭湯に行つて、夜は世代を越えておしゃべりと、私にとっては楽しい時間となりました。

ボランティアハウスには常駐者がいませんが、より良い交流の場になってほしいと願っています。

★菱田 正樹さん (東京都墨田区)

車両持ち込みボランティア

震災が起つてより、毎月能登半島にて個人的にボランティア活動を行ってきました。そして、3月にはHPAスタッフと現地視察を行い、七尾市社会福祉協議会課長や内灘町ボランティアセンター(VC)との面談で、現在の被災地の状況、現在VCが必要としていること、求めている物、今後の見通しなどを聞かせていただきました。

そして私は、5月から、各VCにて車両持ち込み運転ボランティアとして活動を行うことにしました。

先日のVCとの面談で言われたことが、「ボランティアの人がいても、車両がなく、活動が行えない。軽トラック、2トトラック、7人乗り以上のワゴンなどが足りない。さらに車両運転手を確保しないと、ボランティア活動募集の人数を増やせない」とのことだったからです。

5月から2ヶ月間、みんなで車両持ち込み運転ボランティアの活動を行っ



ひかりプロジェクトの車両が大活躍



仮置き場で作業するボランティアたち

配車予定表に記入するVCスタッフ



ています。VCスタッフにも名前や顔を覚えてもらい、次回の活動予定なども引き継ぎ、予約などもできるようにになりました。予約ができていない日でも、VCスタッフに活動を頼まれたりなど、繋がりが少しはできたように思っています。

私はボランティア活動において最も大切なことは、自分たちがやりたいことをやるのではなく、相手が求めていることに寄り添い、その手伝いをさせていたただくことだと考えます。

今後、現地の状況は変化し続けます。その時にも、相手のことを思い、心に寄り添っていける柔軟な活動を、多くの人たちと続けていきたいと思ひます。

★井上 智さん (東京都大田区)

内灘町での活動

5月の連休と6月上旬に、内灘町(金沢市に隣接、海沿いの砂地のため液状化で家屋被害甚大)でボランティア活動を行いました。

活動は2件で、①液状化で壊れたコンクリート床の破砕塊の片付け、②仮設住宅に転居するため被災家屋の家財片付け、です。



内灘町 液状化した家屋前

能登半島全体が、テレビ・新聞で現地レポートされなくなり、また、お正月の地震から半年経ったこともあり、もう復興していると思われる方もおられるようですが、実際にはほとんど半年前のままです。

被災地は高齢の方が多く、ご自宅を再建しようにも、体力・気力、そしてお金の問題で、思うようにはできないように思います。そんな中でも、徐々にお

家の片付けは進んでいます。少しでも生活を再建するお手伝いができれば、辛いお気持ちもひよつとしたら軽くなるかもしれないと思って、現地で活動させていただきました。

家屋片付け以外にも、炊き出しお手伝い、農作業支援もあります。

また、現地に来て、ご飯を食べたり、お酒やお土産を買ったりされるのも、ボランティア活動かと思えます。引き続きよろしくお願いいたします。

★大江 靖さん (東京都台東区)

七尾市テント村に宿泊して活動

5月4日8時30分、七尾市ボランティアセンター(VCC)に到着。約100人のボランティアで壊れた家屋の廃材、家具、家電製品等の災害廃棄物を片付け、運搬を行いました。ボランティア活動を終えて、野球場にあるテント村に到着。快適な環境のテントで、岡山県総社市の支援活動の一環によるものだそうです。ただ、夜はどれほど気温が下がる



七尾市野球場のテント村



仮置き場でまず、それぞれ指定の場所に降ろす

か心配でしたが、パレットに断熱材、テント内には床マットと寝袋マットがあり、寒さ対策は万全でした。

5月5日、テント村を出て七尾市VCCへ。本日の作業は、災害廃棄物仮置き場での積み降ろしと仕分け作業。

被災者の方々と接する機会はありませんでしたが、重要な裏方業務です。軽トラックや2トントラックが次々に入ってきて荷降ろし。家具類の解体を行い、仮置き場へ送り出します。

七尾美術館の駐車場での作業でしたが、なかなかの重労働でした。家具から外した鏡やガラス障子の粉砕作業は危険を伴い緊張しました。夕方ギリギリまで作業を行いました。初めての経験で、貴重な体験をさせていただいた一日でした。活動を終えて、射水市のボランティアハウスに帰り、シャワーを浴びてリフレッシュしました。

今後は広く皆さまにボランティアハウスを活用していただき、いろいろな

形でボランティア活動をしていただければと切望します。重労働ばかりではありません。現地での観光や購買も大切なボランティア活動です。

★橋本 敏廣さん (三重県津市)

被災した方の思い (現地で聞いた声)

七尾市災害ボランティアセンターの活動オリエンテーションでの話です。

「七尾市では、『災害ごみ』と言わずに『災害廃棄物』と言います。被災者の方が大切にされていたものや、想い出のあるものを、この度の地震で被災されたために廃棄するものですから『災害ごみ』ではありません。被災者の立場に立って行動してください」

また、ある現場で災害廃棄物の家具等を2トントン車へ積み込み、リーダーが作業完了の手続きをしている時、立会っていた70歳代と思われる奥様が2トントン車の方を見ながら、「あのタンスは、私が嫁入りするときに持ってきたもの



です」とおっしゃいました。想い出のある大切なタンスとのお別れでした。そこに『災害ごみ』はありません。

内灘町は、液状化で甚大な被害を受けた所です。4月末にボランティア活動をした時、避難所から立会いに来られたご主人の話です。「この家は、今も少しずつ沈んでいる。土地がまだ固まっていない。この地域の住民は家を解体した後、ここに家を建てる人は一人もいないため、荒野になる。それぞれが別の場所です生活することになる…」私は静かに耳を傾けるだけでした。

★藤原 眞久さん (茨城県稲敷市)

シニアボランティアの活躍

この度、能登へボランティアに行っているのは、シニア世代の参加が多いことです。朝の受付会場をざっと見渡すと、60代以上の参加者が3割はおられると思います。

最初に七尾市ボランティアセンター(VC)に行った4月22日、駐車場からVCに向かう道で、私と同じような年代のお二人に出会い、うれしくなって声を掛けました。「おはようございます。どちらから来られましたか?」埼玉です。あなたは?「はい私は、茨城からです」と話は弾みます。

聞くと、一人はボランティアベテランで、阪神・淡路、東日本、熊本に行ってきたという方で73歳。もう一人の方は75歳。ボランティアは初めてで、本当は能登半島をこの春、ドライブ旅行するつもりだったが、こんなことになったので、ボランティアに来たとのこと。

気が付いたところは全くなく、「自分ができるところをさせてもらいます」とおっしゃっていた。「でも、やったことがないので、多少不安です」とも。

後の方と同じ班で活動することになり、様子を見てみると、他の若いメンバーとも、相談しながら生き生きとやっておられました。

シニア万歳!です。

ボランティアは決して若い人だけの場ではありません。それぞれの年齢・性別に応じて、いろんな役目があります。無理せず、楽しくです。

一日の作業が終わって、「今夜は車中泊なので、能登の美味しい魚が食べられるお店を探します」とおっしゃって別れました。

また、6月20日は最高の天気気温は32℃程度の中での作業でした。

今年10月に80歳を迎えるお兄さん(私にとっては)が、我々のグループに入られました。作業に向かう車の中で聞くと、滋賀県の甲賀から軽自動車を持って7時間運転してこられたとのこと。



前列右が80歳のお兄さん、その後ろが藤原さん

「今日来られて、うれしくてうれしくて」とおっしゃいます。

「ちよっとでも人のお役に立てれば、もう思い残すことはない」と、穏やかではないことまで...



スマホからの申し込みは家族に頼んだとか。これまで何度もやってみたが駄目だったそうです。その後、無事作業ができたご褒美に、和倉温泉の総湯で汗を流しました。

ボランティアハウスのこと

ボランティア活動を継続的に行うには、活動地近くに宿泊できる拠点が必要です。活動地の七尾市や内灘町に車で1時間程度で行ける場所として、富山県射水市の「クローネ太閤山」の一室を支援機構に借りていただきました。

最寄り駅は、北陸新幹線・富山駅から10分、あいの風とやま鉄道の「小杉駅」で、ボランティアハウスまで約1.3kmの距離です。

部屋は鉄筋コンクリート造4階建の1階で、6畳2室+DK、バス・トイレがあり、最大8名の宿泊(寝具は8セット用意)が可能です。

入居前に畳や障子・襖などを替えていただき、玄関を入ると新しい畳の香りが漂ってきました。

冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機も揃い、Wi-Fi設備も備えて、ボランティアにとって快適な住環境を提供しています。

なお、大活躍している7人乗りの車(3頁参照)は、有志の方が提供してくださり、山梨県で登録しました。整備工場の社長も、「被災地で使うから」と、特に念入りに点検・整備してくださいました。(阪本 正雄)



清掃用支援タオル 備蓄について

お礼とお願ひ

皆さまには、日頃からタオルの備蓄にご理解・ご協力を頂き、お礼申し上げます。

また、4月・5月を『2024年タオル備蓄強化月間』としておりましたが、その間、在庫状況のご連絡や二次保管場所への発送（5月から6月14日まで）、9件で979枚）など、ご協力ありがとうございました。

これからは、梅雨や台風による洪水等の被害が想定されます。まずは人命救助が最優先ですが、その後の復旧作業等でタオルがとても役立ちます。

ご自宅で余っている**フェイスタオル**と**バスタオル**の備蓄にご協力いただける方（グループ）は、事務局にご連絡ください。

なお、タオルは**新品と使用済み**を仕分けして、皆さまのお手元で一次保管をお願いいたします。

一定量（100枚程度）になりましたら事務局へご連絡ください。送り返すご連絡しますので、**箱に枚数を記載**して、着払いでお送りください。

（送料はHPAで負担します）



防災出前講座が開催されました

6月16日（日）、東京都文京区において防災出前講座が開催されました。

テーマは「地震から身を守る」
受講者は29名（内、リモート受講は14名）、講師は3名でした。

講義が中心でしたが、グループワークでは、班に分かれて、「地震発生時とその後の対応」について話し合いました。様々な場所や状況で地震が起こったときのことを想定して、それぞれが意見を出し合い、まとめて、各班が発表しました。



講座を終えて 全員で記念撮影

能登半島被災者支援募金

6月27日現在、個人102名・14団体から1,681,288円をお寄せいただきました。ありがとうございます。

この募金は、4月末から始めた活動や、仮設住宅ができた後、寄り添い支援の様々なイベント開催のために使わせていただきます。

今後とも、皆様の温かいお心をお寄せくださいますようよろしくお願いいたします。

★ 郵便振替：00210-2-137823

★ ゆうちょ銀行：記号10890 番号16718311



災害用簡易トイレの説明は毎回関心が高い

参加者からは、「詳細な資料で分かりやすく、忘れがちだった地震への対応を真剣に考える場となった」等の意見が多く寄せられました。
近い将来予測されている首都直下地震に備えて、大変有意義な防災出前講座となりました。（大江 靖）

編集後記

▼5月、6月に能登でボランティア活動に参加された方々の、感想やご意見を掲載しました。

▼また、本文中に「仮置き場」と書いてあり、誤植かと思われた方もあるでしょうが、そうではありません。

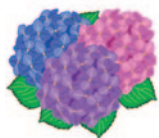
七尾市では、12種類に分類する必要があり、各家から出た災害廃棄物は、一旦「仮置き場」に集められます。

タンスなどには、鏡や金具などが付いていますが、それを外して分別する必要があります。これは大変な作業ですが、毎日多くのボランティアがこの作業に関わっています。

▼今年、夏休みには若い方々にも、ぜひ能登でのボランティア活動に参加していただきたいと思っております。

▼被災地の現実
は悲しいものがありますが、支援される側、する側に優しさや笑顔が溢れると温かい気持ちになります。

（大江 靖）



ひかり新聞 No.50 2024年（令和6年）6月30日

発行者：一般社団法人 ひかりプロジェクト

〒401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口1975

電話 0555-72-8191 FAX 0555-76-6696

https://www.hikari-project.org E-mail:hpa-office@hikari-project.org